

滋賀大学経済学部附属史料館 にゅうす

S
・
A
・
M

2019・05・07



No.50

変わるものと連続するもの

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今年は五月に改元が行われるということで、四月初めに新元号が発表されました。新聞やテレビでもかなり大きく報道していましたから、皆さんの中にも何か浮き立つような、大きく時代が変わるような気持ちになった人がいるのではないのでしょうか。

しかし、日本で天皇一代につき一つの元号を用い、天皇の代わりにより改元が行われる「一世一元」となるのは明治時代からで、それほど古い制度ではありません。それ以前はもっと頻繁に改元が行われ、たとえば安政七年（一八六〇）は三月に改元して万延元年となりますが、翌年二月には文久元年に改元します。万延は一年足らずでした。文久四年（一八六四）も二月に改元して元治元年となり、さらに翌年四月には慶応元年となります。こんなペースでいちいち時代が変わっては大変です。

ところでこの元治という元号について、宮廷文化研究者である吉野健一さんが四月四日付の京都新聞で面白いエピソードを紹

介していました。江戸時代には朝廷が新元号の案を出し、幕府との交渉を通じて決定されたのですが、この時出されたのが「令徳」という案だったそうです。しかし幕府は「これでは徳川に何かを命令しているようだ」と反対し、結局元治が採用されたということとです。「令」の字を元号に使うのは令和が最初ですが、これもまた「和むようにと命令する」といった意味に取れます。

それにしても、元号が変われば何かのリセットされるということはありませんか。東日本大震災や、それ以降各地で発生した震災や災害によって、仮設住宅での生活を余儀なくされ続けている人びとがいます。原発事故も収束には遠く、今も故郷へ帰れない人びとがいます。むしろ持ち越されたままの問題がとも多いことに、今一度目を向けるべきでしょう。

過去は現在と、現在は未来と連続しており、そのつながりを分断することは誰にもできません。皆さんも大学でさまざまなことを学び、真摯に現在と向き合ってくださいと願います。

（史料館長 青柳周二）

二〇一九年度（令和元年）企画展

近世・近代の彦根と世界遺産を描いた絵図

五月二〇日（月）～六月一四日（金）

土・日休館、九時三〇分～一六時三〇分

ギャラリートーク

五月二四日（金）・三一日（金）、六月六日（木）・一三日（木）

一二時三〇分～一三時

夜間のゼミ見学につきましては対応させて頂きませんのでお申し出下さい。